

# 外科学第一

## 1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助教（うち病院籍）	8 人	(5 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	4 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	3 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	21 人	

## 2 教員の異動状況

- 椎谷 紀彦（教授）（H21.2.1～現職）  
 船井 和仁（准教授）（H21.4.1～H23.6.30 特任講師；H23.7.1～現職）  
 山下 克司（講師）（H15.1.1～現職）  
 和田 英俊（講師）（H21.4.1～現職）  
 鷺山 直己（助教）（H13.6.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）  
 小倉 廣之（助教）（H18.1.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）  
 佐藤 正範（助教）（H21.4.1～現職）  
 大倉 一宏（助教）（H20.9.1～H23.3.31 診療助教；H23.4.1～現職）  
 宮木 祐一郎（助教）（H21.4.1～現職）  
 鈴木 正人（診療助教）（H23.4.1～現職）  
 小泉 圭（救急部診療助教）（H23.4.1～現職）  
 高橋 大輔（救急部診療助教）（H23.4.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	23.31	

(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編
(3) 総説数 (うち邦文のもの)	4 編 (3 編)
そのインパクトファクターの合計	3.23
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	4 編 (3 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	1 編 (1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(6) その他 (レター等)	0 編
そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Washiyama N, Shiiya N, Yamashita K, Terada H, Ohkura K, Takahashi K. Etiology of renal failure influences the outcome of heart valve replacement in chronic dialysis patients. J Artif Organs. 14:39-42, 2011
2. Funai K, Suzuki K, Shimizu K, Shiiya N: Ablation of weak emphysematous visceral pleura by an ultrasonically activated device for spontaneous pneumothorax. Interact Cardiovasc Thoracic Surg 12: 908-911, 2011
3. Funai k, Sugimura H, Morita T, Shundo Y, Shimizu K, Shiiya N: Lymphatic vessel invasion is a significant prognostic indicator in stage IA lung adenocarcinoma. Ann Surg Oncol 18: 2968-2972, 2011.
4. Miyaki Y, Suzuki K, Koizumi K, Kato T, Saito M, Kamiyama H, Maeda T, Shibata K, Shiya N, Konishi F: Identification of a potent epigenetic biomarker for resistance to camptothecin and poor outcome to irinotecan-based chemotherapy in colon cancer. Int J Oncol 40(1):217-26 2012
5. Koizumi K, Alonso S, Miyaki Y, Okada S, Ogura H, Shiiya N, Konishi F, Taya T, Perucho M, Suzuki K: Array-based identification of common DNA methylation alterations in ulcerative colitis. Int J Oncol. 40(4): 983-94. 2012
6. 春藤恭昌、高橋毅、板谷徹、閨谷洋、杉村久雄、北雄介、野木村宏、小林亮、鈴木一也、清水恵、船井和仁、椎谷紀彦: 胸部外科の指針 肺腺扁平上皮癌切除例の臨床的検討. 胸部外科 64: 871-879, 2011

インパクトファクターの小計 [10.812]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Sugimura H, Tao H, Suzuki M, Mori H, Tsuboi M, Matsuda S, Goto M, Shinmura K, Ozawa T, Tanioka F, Sato N, Matsushita Y, Kageyama S, Funai K, Chou PH, Matsuda T: Genetic susceptibility to lung cancer. Front Biosci 3: 1463-1477, 2011.
2. Shinmura K, Igarashi H, Goto M, Tao H, Yamada H, Matsuura S, Tajima M, Matsuda T, Yamane A, Funai K, Tanahashi M, Niwa H, Ogawa H, Sugimura H: Aberrant expression and mutation-inducing activity of AID in human lung cancer. Ann Surg Oncol 18: 2084-2092, 2011.

3. Okada S, Suzuki K, Takaharu K, Noda H, Kamiyama H, Maeda T, Saito M, Koizumi K, Miyaki Y, Konishi F: Aberrant methylation of the Pleckstrin and Sec7 domain-containing gene is implicated in ulcerative colitis-associated carcinogenesis through its inhibitory effect on apoptosis. *Int J Oncol.* 40(3): 686-94 2012
4. Kato T, Suzuki K, Okada S, Kamiyama H, Maeda T, Saito M, Koizumi K, Miyaki Y, Konishi F: Aberrant methylation of PSD disturbs Rac1-mediated immune responses governing neutrophil chemotaxis and apoptosis in ulcerative colitis-associated carcinogenesis. *Int J Oncol.* 40(4): 942-50. 2012
5. Saito M, Suzuki K, Maeda T, Kato T, Kamiyama H, Koizumi K, Miyaki Y, Okada S, Kiyozaki H, Konishi F: The accumulation of DNA demethylation in Sat  $\alpha$  in normal gastric tissues with *Helicobacter pylori* infection renders susceptibility to gastric cancer in some individuals. *Oncol Rep.* 27(6): 1717-25. 2012
6. Ueda Y, Yoshimoto K, Ohmae E, Suzuki T, Yamanaka T, Yamashita D, Ogura H, Teruya C, Nasu H, Ima E, Sakahara H, Oda M, Yamashita Y. Time-resolved optical mammography and its preliminary clinical results. *Technol Cancer Res Treat.* ;10(5):393-401. 2011

インパクトファクターの小計 [11.01]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kunihara T, Kubota S, Shiyya N, Iizuka K, Sasaki S, Wakasa S, Matsuzaki K, Matsui Y. Cytokine balance in hepatosplanchnic system during thoracoabdominal aortic aneurysm repair. *J Artif Organs* 14:192-200, 2011

インパクトファクターの小計 [1.488]

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. JCS Joint Working Group. Collaborators: Ozaki S, Ando M, Isobe M, Kobayashi S, Matsunaga N, Miyata T, Nakabayashi K, Nakajima Y, Nose M, Ohta T, Shigematsu H, Sueishi K, Tanemoto K, Yoshida A, Yoshida M, Yutani C, Arimura Y, Fukaya S, Hamaguchi S, Hashimoto H, Hiromura K, Ishizu A, Iwai T, Kaneko K, Kataoka H, Kawana S, Kida I, Kobayashi Y, Komori K, Masaki H, Matsumoto T, Nagaoka T, Nagasawa K, Nojima Y, Okada M, Okazaki T, Sakamoto I, Shigematsu K, Shiyya N, Takahashi A, Takizawa H, Yamada H, Yoshida S, Fukui T, Horie M, Koike T, Kumagai S, Sasajima T. Guideline for management of vasculitis syndrome (JCS 2008). *Circ J* 75:474-503, 2011
2. 椎谷紀彦, 神谷有里子, 湊恵美子. 要点でつかむ!心臓血管外科手術と看護ケア[術式と術後合併症編]大血管手術の術式と術後合併症. *ハートナーシング* 24: 703-716, 2011
3. 椎谷紀彦. PARTNERS プログラムにおける、末梢動脈疾患が健康関連 QOL に及ぼす影響. *血栓と循環* 19: 181-182, 2011
4. 椎谷紀彦. Invited Commentary. *日本心臓血管外科学会雑誌* 40: 98-99, 2011

インパクトファクターの小計 [3.225]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 椎谷紀彦. 胸部および胸腹部大動脈瘤手術の体外循環. in 体外循環と補助循環 2011 日本人工臓器学会第 27 回教育セミナーテキスト. 日本人工臓器学会、東京、33-39, 2011
2. 椎谷紀彦. 臓器障害を有する胸部大動脈手術. in 第 64 回日本胸部外科学会定期学術集会 Postgraduate Course テキスト. 日本胸部外科学会、東京、33-35、2011
3. 椎谷紀彦. 腹部大動脈瘤の標準手術. in 標準血管外科学 III、メディカルトリビューン、東京、2011

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kunihara T, Kubota S, Wakasa S, Shiyya N, Matsui Y. Prevention of Spinal Cord Injury After Thoracoabdominal Aortic Aneurysm Repair. Chapter 13, in Diagnosis and Treatment of Abdominal and Thoracic Aortic Aneurysms Including the Ascending Aorta and the Aortic Arch, ed. Grundmann RT, InTech, 2011

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 清水恵、落合秀人、松下晃三、神藤修、鈴木昌八、北村宏：脾破裂を伴った外傷性横隔膜破裂. 胸部外科 65: 125-127, 201

#### 4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	( 5 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	( 0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	2 件	(336 万円)
(4) 財団助成金	0 件	( 0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	12 件	(276 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	23 件	(1,135 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

基盤研究B 「病理診断を可能にするマイクロ波マンモグラフィの研究」(研究代表者 静岡大学/工学部 桑原義彦) 分担研究者 5万円

(3) 他政府機関による研究助成

独立行政法人科学技術振興機構 プロトタイプ実証・実用化プログラム『乳がんスクリーニングを目指した光マンモグラフィの開発』平成21-23年 分担者 50万円 代表者 浜松ホトニクス(株) 中央研究所 山下豊

独立行政法人科学技術振興機構 FS ステージ 探索タイプ『光学的手法を用いた乳がん化学療法ベッドサイドモニターの開発』H23年度 代表者 286万円

- (5) 受託研究または共同研究  
企業等 12件

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	15件
(2) シンポジウム発表数	0件	3件
(3) 学会座長回数	0件	12件
(4) 学会開催回数	0件	1件
(5) 学会役員等回数	0件	25件
(6) 一般演題発表数	3件	

- (1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Takahashi D, Shiiya N, Yamashita K, Terada H, Washiyama N, Ohkura K, Suzuki M, Ohashi Y. Adjunctive Use of Omentum during Open Surgical Repair for Infected Abdominal Aortic Disease. 7th Japan-Korea joint meeting for Vascular Surgery, Okinawa (Japan), 2011/4/21
2. Ogura H, Teruya C, Koizumi K, Nasu H, Sakahara H. The Spectroscopic Feature of The Breast Cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2011, 2011.
3. Ide Y, Nishio T, Matsunuma R, Koizumi K, Ogura H, Shiiya N and Setou M Imaging mass spectrometry based lipid metabolites analysis for breast cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium 2011, 2011.

- (2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 東海心臓外科懇話会、2011年9月10日、アクトシティ

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 椎谷紀彦:VSD術後、AR術後の慢性A型大動脈解離に対する Bentall+全弓部大動脈置換術、第18回大動脈瘤シンポジウム、2011年5月21日、熊本
2. 椎谷紀彦:胸部及び胸腹部大動脈瘤手術の体外循環、第27回日本人工臓器学会教育セミナー、2011年7月16日、東京

3. 椎谷紀彦：臓器障害を有する胸部大動脈手術、第 64 回日本胸部外科学会総会 postgraduate course 心臓コース専門医生涯教育大動脈、2011 年 10 月 9 日、名古屋
4. 椎谷紀彦：diseased artery の handling、第 27 回腎移植・血管外科研究会、2011 年 6 月 24 日、札幌
5. 椎谷紀彦：大動脈瘤治療の現況、第 148 回浜松循環器研究会、2011/4/14、浜松
6. 椎谷紀彦：大動脈疾患治療の現状と展望、第 83 回臨床心臓研究会、2011/10/14、札幌
7. 椎谷紀彦：教育講演 4-4 匠の手術 TEVAR 時代の胸部大動脈手術、第 54 回日本胸部外科学会関西地方会、2011/7/1、高松
8. 椎谷紀彦：大動脈弁温存・形成手術の試み、第 13 回大山心臓血管外科カンファレンス、2011/11/12、米子
9. 椎谷紀彦：脊髄保護を考える、第 12 回大動脈外科フォーラム、2012/2/25、大阪
10. 椎谷紀彦：心臓血管外科治療の侵襲と QOL への取り組み、函館循環器病懇談会、2012/3/9、函館
11. 椎谷紀彦：大動脈弁温存・形成手術の現況、第 1 回苫小牧循環器病研究会、2012/3/30、苫小牧
12. 椎谷紀彦：座談会：スペシャリストによる大動脈治療の up to date、2011/9/1、東京
13. 船井和仁：肺癌における低侵襲手術の実際 ～更なる患者 QOL 向上のために～、第 34 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会、2011 年 6 月、浜松
14. 船井和仁：肺がんの診断と治療 ～肺がん検診との関わり～、浜松市医師会生涯教育研究会、2011/4/28、浜松
15. 船井和仁：肺がんに対する完全胸腔鏡下肺葉切除術の実際、第 11 回静岡がん治療フォーラム・がんプロフェッショナル養成プラン、2012/2/15、浜松

### 3) シンポジウム発表

1. 船井和仁：進行肺癌に対する治療戦略 大動脈合併切除の検討、第 28 回日本呼吸器外科学会総会、2011 年 5 月、別府
2. 和田英俊：腹腔鏡手術からみた日本ヘルニア学会鼠径ヘルニア分類の検討 第 9 回日本ヘルニア学会学術集会 共通シンポジウム 1 2011.08.01 博多
3. 和田英俊：腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の利点と欠点ー今後の発展に必要なことー 第 24 回日本内視鏡外科学会総会 パネルディスカッション 2011.12.09 大阪

### 4) 座長をした学会名

- 椎谷紀彦： 第 39 回日本血管外科学会総会、教育講演 3・4、2011/4/22、宜野湾  
 第 54 回関西胸部外科学会学術総会、ビデオセッション 3 大動脈、2011/6/30、香川  
 第 1 回心臓血管外科サマースクール、ライブセッション (進行)、2011/8/21、神奈川  
 第 64 回日本胸部外科学会総会、ディベート成人心臓 3 大血管：血栓閉塞型 typeA DAA の手術適応：手術 vs 保存、2011/10/12、名古屋

第49回日本人工臓器学会総会、人工血管・ステントグラフト、2011/11/26、東京  
静岡健康・長寿学術フォーラム2011、セッション2 シンポジウム メディカルエ  
ンジニアリングと健康、2011/10/21、静岡

船井和仁：静岡県外科医会集団会、2011/6/4、静岡

胸部悪性腫瘍最前線 in 静岡 2011、2011/7/29、静岡

和田英俊：第9回日本ヘルニア学会学術集会、2011.08.02、博多

第73回日本臨床外科学会総会、2011.11.18、東京

第24回日本内視鏡外科学会総会、2011.12.09、大阪

小倉廣之：第19回日本乳癌学会学術総会、2011.9.2、仙台

### (3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

椎谷紀彦：日本血管外科学会 理事

日本心臓血管外科学会 評議員、学会雑誌編集幹事

日本胸部外科学会 評議員

日本外科学会 代議員

日本脈管学会 評議員

日本人工臓器学会 評議員

日本大動脈外科研究会 常任世話人

血管外科アカデミー 世話人

大動脈瘤シンポジウム 世話人

関西胸部外科学会 評議員

東海外科学会 評議員

東海心臓外科懇話会 幹事

中部血管外科学会 評議員

山下克司：関西胸部外科学会 評議員

日本循環器学会 東海支部評議員

船井和仁 日本胸部外科学会 評議員

日本呼吸器外科学会 評議員

小倉廣之 日本乳癌学会 評議員

和田英俊 日本内視鏡外科学会 評議員 ガイドライン協力委員

日本臨床外科学会 評議員

日本ヘルニア学会 評議員、評議員選定委員、保険診療委員

小切開・鏡視外科学会 評議員

単孔式内視鏡手術研究会 世話人

Needlescopic Surgery Meeting 世話人

腹腔鏡下胆道手術研究会 発起人メンバー

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

日本心臓血管外科学会雑誌 編集幹事

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

椎谷紀彦：Eur J Cardio-Thorac Surg (Europe) 6回 [IF=2.293]

Advances in Therapy (USA) 1回 [IF=1.668]

Interact Cardiovasc Thorac Surg (Europe) [Medline] 1回

Circ J (Japan) 2回 [IF=3.225]

J Artif Organs (Japan) 2回 [IF=1.488]

Surg Today (Japan) 4回 [IF=1.057]

Gen Thorac Cardiovasc Surg (Japan) 7回 [Medline]

Ann Vasc Disease (Japan-Asia) 3回

Heart Vessels (Japan) 1回 [IF=1.882]

和田英俊：Asian Journal of Endoscopic Surgery (Japan) 1回

Internal Journal of Medical Sciences (USA) 1回

## 9 共同研究の実施状況

	平成23年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	0件

(2) 国内共同研究

1. JRAD: Japanese Registry of Acute Aortic Dissection 急性大動脈解離に関する全国規模登録
2. Stage II/IIIA(T2 以上)非扁平上皮・非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン(CBDCA)・パクリタキセル(PTX)/ベバシズマブ(BEV)を用いた術前化学療法の有効性及び安全性の検討  
Phase I/II Study
3. 転移性肺腫瘍に対する肺切除術の多施設共同コホート研究

## 10 産学共同研究

	平成23年度
産学共同研究	2件

1. 近赤外蛍光観察装置を用いた肺区域面の同定の検証 (浜松ホトニクスとの共同研究)
2. 尿中自家蛍光分析などの腫瘍マーカーとしての有効性評価を目的とした癌患者からの追加採尿 (浜松ホトニクスとの共同研究)

#### 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 乳腺グループでは、近赤外線を用いた乳房計測、質量顕微鏡による乳癌細胞の検討、質量顕微鏡を用いた CTC の検討、マイクロ波を用いたマンモグラフィの研究、を行っている

#### 15 新聞, 雑誌等による報道

1. 「細径鉗子で患者負担減 浜松医大・和田医師ら発表」2012年2月11日 静岡新聞
2. 「肺がん治療最先端」2011年9月18日 SBS ラジオサンデークリニック (船井)
3. 「大動脈瘤」2012年1月22日 SBS ラジオサンデークリニック (椎谷)